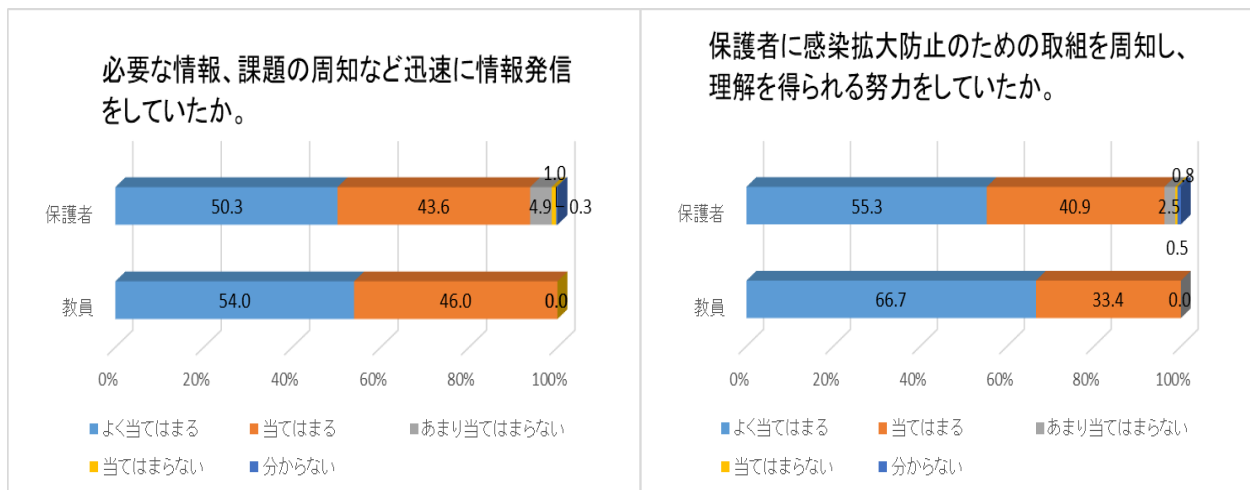


学校名：中央区立有馬小学校 所在地：中央区日本橋蛸殻町 2-10-23

校長名：清水 晶子 児童 630人 学級数 19 教員数 32人 職員数 32人

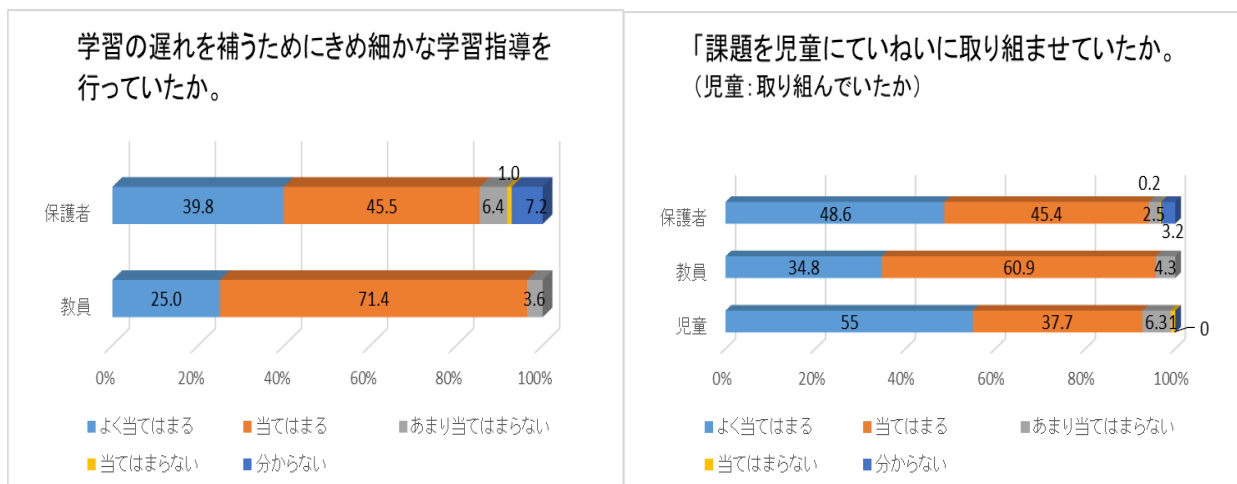
1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標 1 「安心・安全な学校づくり」の構築



- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて、迅速・的確に対応し、安心安全な教育活動を目指してきた。
- ・休校中や休校明けには、様々な情報が錯綜する中で、保護者や児童の不安を少しでも取り除くために、必要な情報や、児童の課題等迅速に情報を発信した。約94%の保護者から高評価を得て、目標を達成することができた。教員も今できる限りの最善を尽くして実施できた。
- ・学校再開後は、感染拡大防止のためのガイドラインを作成し、保護者に配布して周知徹底を図った。また、ホームページや安心安全メールを活用し、衛生面や授業での対策等を伝え、理解を得られる努力をした結果、約96%の保護者から高評価を得て、目標を達成することができた。
- ・引き続き「新しい生活様式」の中で、保護者の理解と協力の下、安心安全な学校作りに努めていく。

重点目標 2 「確かな「学力向上」を図る教育の充実

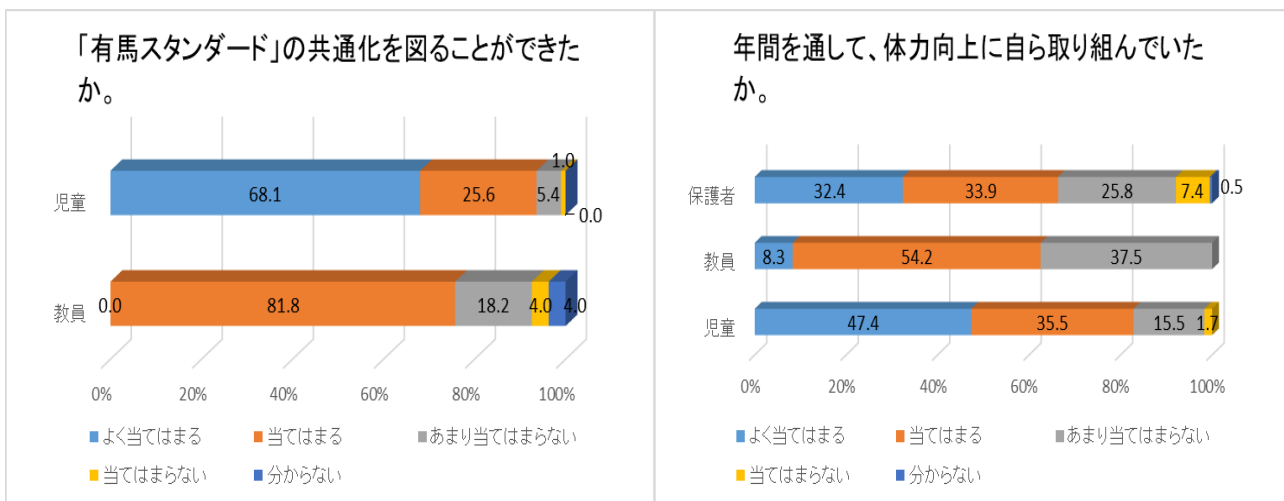


- ・3月から6月までの休校中の学習内容の確実な定着のために、水曜日の放課後や個人面談期間中の放課後や夏季休業期間中に補習「ステップアップ教室」を実施した。また、基礎的・基本的な知識・技

能の定着については、算数科で従来どおり東京都が推奨している「東京ベーシック・ドリル」の診断シート、練習シートを有効に活用し、第4学年までの学習内容の確実な定着を図った。きめ細かな指導による学習の定着については、どの教科においても重点として取り組み続けており、約85%の保護者から達成しているとの回答を得ている。また、「漢字は書けるまで、計算はできるまでやり遂げたか」という質問に95.5%の児童が「できた」と答え、教員も授業改善の効果を実感することができた。今後も基礎学力の確実な定着を目指し、学校全体で取り組んでいく。

- ・「ステップアップ教室」以外でも、放課後の時間を活用して補習教室を実施した。課題に対して時間をかけて丁寧に取り組むことで、更に学習意欲が高まり、主体的で深い学びに繋がったり、ケアレスミスが減ったりするなどの効果が表れた。ノートの取り方や持ち帰った作品などを通して、約94%の保護者から理解を得ることができた。

重点目標3 「有馬スタンダード」や「体力向上」の日常的、継続的な取組の充実



- ・学び合う学級集団を作るためには、学習規律を整えることが大切である。そのために学習の7つの約束「はじめのあいさつをする」「話は最後まで聞く」「意見があるときは手を挙げる」「名前を呼ばれたら『はい』と返事をする」「発言は丁寧にはっきり言う」「プリントにははじめに名前を書く」「おわりのあいさつをする」の共通化を図った。児童と教員の意識や思い描く理想像の違いがアンケートに如実に表れている。「十分できている」と思っている児童に対して、「まだまだできる」と思っている教員が、「有馬スタンダード」の必要性を分かりやすく指導していくことが今後の課題である。
- ・年間を通して、体力向上カードの家庭での取組や体力テストでの苦手意識の強い「持久力」「投力」の強化に努めてきた。12月には、「ARIMA RUN (持久走大会)」を実施した。また、長縄や短縄にも積極的に取り組んできた。保護者と教員の評価は低いが、児童は「よく当てはまる・当てはまる」が83%とコロナ禍で十分な運動ができない中では、一定の効果を得られた。引き続き、体育科の指導の工夫をすると共に、運動の場やきっかけを作っていきたい。

2 今後の改善方策

- ・指導方法の改善について作成した有馬スタンダードを再度検証し、校内研究を軸に教員の授業力を向上させていくこと。
- ・全教科、領域を通して、児童がより主体的に取り組むことができるように、毎時間の授業を充実させていくこと。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図っていくこと。
- ・新しく導入されるICT機器等を効果的に活用し、児童の深い学びに繋げていくこと。
- ・積極的に情報を発信し本校の教育活動を理解してもらう。また、保護者や地域の方との連携も図っていくこと。
- ・コロナ禍での課題や成果を分析し、教育活動の精選に努めていくこと。